

平成 27 年度 横浜国立大学教育人間学部 パネルディスカッション

日時：平成 27 年 10 月 31 日(土) 11:45 ~ 13:15

場所：横浜国立大学 教育人間科学部講義棟 7号館 101 室

- 会次第 1 友松会(同窓会)からの挨拶
2 学部長挨拶
3 パネルディスカッション
テーマ 「私の進路はこうして決めた」



挨拶する高木教授

- コーディネーター 教育人間科学部長
高木まさき教授
- パネラー 新人教諭代表 柴田 寛
企業関係代表 北野 企利子
学校教育課程 4 年 若林 咲
人間文化課程 4 年 川合 扶美
保護者副会長 尾辻 典子
- 総合司会 友松会総務部 小池 弘子



パネラーの方々

△芦川友松会会長挨拶

校友会は、昨年のホームカミングデーの時に立ち上がりました。新しく入学する学生も同窓会に入ってもらうことになりました。今までの保護者会は、友松会で応援しようということになり、保護者の方にもご理解をいただき、友松会に一本化されました。

私は、学芸学部に入りました。学芸学部は、教員養成をするところで、卒業と同時に、あまり考えることなく教員になりました。私の在学中、今日のような機会があったなら、もっと真剣に考えて教員を目指したと思います。

就職されている方、学生で就職活動をされている方、保護者の方々が、今日のように一堂に会して話し合えることは、貴重な時間であると考えます。

△高木学部長挨拶

教育人間科学部は、学校教育課程と人間文化課程の二つの課程から成り立っています。平成 29 年度から、人間文化課程の募集を停止します。学校教育課程は 230 名で、教員養成は厳しいものがあり、何

とか持ちこたえています。

学部を越えての組織を作ろうということから校友会が立ち上がりました。その中で、友松会が益々活躍することを祈念しております。

△パネラー自己紹介

若林さん 学校教育課程、家庭科専攻です。進路は大学院進学を予定しています。

川合さん 人間文化課程、高校生の学習アドバイザーをしていこうと思います。

北野さん 製薬会社に入って 5 年半になります。営業職なので、ドクターを相手に医薬品の情報提供をする仕事をしています。

柴田さん 鎌倉市の今泉小学校で教員をしています。教員になって 7 年目です。

尾辻さん 保護者会は春からなくなり、友松会にお任せしております。私は保護者会の代表をしております。娘が人間文化課程にいます。娘の就職にはタッチできませんでした。

＝パネルディスカッション＝

高木教授 具体的にどんなことをしているか話すといいでしょう。卒論のことでも、サークルのことでも……。

若林さん 大学院に進もうと思います。大学生活で意味があったことは、色々な人と出会ったことでした。私は、中学校か高校の先生になりたいと思っていました。小学生には会話が通じないのではと考えていましたが、教育実習で2年生を担当し、小学校もいいと思うようになりました。部活動やアルバイトを続けてきた中で時間の使い方が上手になり、充実した4年間でした。

尾辻さん ここに登壇している方は、自分をしっかりみつめ、進んでいく道を開拓された方だと思います。私の娘は呑気で、サークルに入って学生生活を楽しんでいました。バイトもしていましたが、エントリーシートに書くことのない状態でした。横浜国大というネームバリューで、何とか9月に就職活動が終わりました。私も何も言いませんでした。

これから就職活動をされる方がいたら、親からも声掛けをされた方がよいと思います。

保護者 私の娘は下宿をしています。娘は親に何も言いませんでした。皆さん、親から何かアドバイスすることがあったら教えてください。

北野さん 私は親元を離れていました。鳥取県で、盆と正月しか帰りませんでした。一人暮らしですから、エントリーシートを見せる人もなく自分で考えて書きました。親と相談して書けば、もっと良い会社に入

ることができたかもしれません。先輩として、本人が興味をもって事柄に接し、色々な機会に接していけば仕事の内容も分ってきます。チャンスは自分で作るものではないでしょうか。

柴田さん 私は実家から大学に通っていました。父親から、色々なことを言われ煩く思いました。しかし、自分が悩んだとき、父親からアドバイスを受け、やはり人生の先輩なんだと思えました。進路を決めることは大事なことです。親からの言葉がけが必要でしょう。

若林さん 私は実家から通っていました。私が悩んだ時や質問をした時など、親は背中を押してくれました。私は、両親のおかげで、自分で選択する力がつきました。そして、自分で選んだことだから、頑張ろうと思えました。

北野さん 私は1年に1～2回しか家に帰りませんでした。母には何も伝えなかったのですが、愚痴を言い合える相手で良かったと思っています。就職活動は、自分の進む道、働く場を選ぶことです。保護者の皆さんは、相談する人がいるかどうかを聞いてほしいと思います。

尾辻さん 子どもには、迷うことがあれば「相談しなさい」と発信することが大切です。将来どんな仕事に就くか、親子で考え、取り組むことが大切です。

高木教授 学生センターでは、応援すること、信じること、声掛け等で就職支援をしています。是非、相談をしてください。